

学生からのコメント

栗原研究室の修士1年の種田宗司です。私のいる研究室では代数学を土台に「数論」を学んでいます。その名の通り「数」について研究しています。学部生の頃には、例えば

$$x^2 + y^2, x^2 + 2y^2, x^2 + 5y^2 \quad (x, y \text{は素数})$$

という型で書ける素数はどんな素数か、という問題が深い理論に結び付いていたり、不定方程式の整数解がどのくらいあるか、などについて勉強しました。私達が何気なく扱っていた自然数がただ、1, 2, 3...と並んでいるだけでなく、何かを語りかけているように思えて来ました。数論と言う学問を通じて深遠な数学の一端を覗ければと思っています。

研究室自体は、今年で2年目となる新しい研究室です。メンバーは4年生が1名、修士1年生が2名、博士2年生が1名、その他関係者5名(右上の写真参照)の研究室です。学部生は授業と研究室での週に1回の発表(いわゆる“輪講”)を中心に勉強しています。大学院試験や教員免許、資格試験の勉強するものもあり、実験系の学科や研究室に比べ自由な時間は多いでしょう。同期ともども数学が好きなものばかりで、切磋琢磨に数学を学ぶ日々です。こう書く



バースデーパーティーも盛大です！

と、勉強ばかりしているようですが、本当は、研究室のメンバーで飲みに行き遊びに行きと、楽しくやっています。例年夏には義塾の蓼科山荘(長野)を利用し、合宿に行っています。勉強はもちろんのこと、昼はペンギンや白球とも戯れ。夜は酒(地酒・地ビール等)とも戯れ、盛大な行事となりました。

金融工学を学びに管理工学科に進むか、迷った頃もありましたが、数理に来て良かったと実感しています。

教員からのコメント



整数論を研究しています。数の世界に入っていくと、深く進めば進むほど美しい世界が広がるのです。ちょうど、山に登ったときに、上に行けば行くほど美しい景色が広がるように、先に進めば進むほど、美しい景色が広がります。写真を撮ってきて、見せてあげたいとも思いますが、やはり写真では本物の感動は伝わらないようです。自分で汗をかいて登ってみて、初めてめぐり合える景色は格別です。数理科学科に来て、数学

を勉強してみると、今までの数学は子供向けのものだったことがわかると思います。皆さんも、数理で本物の数学に出会いませんか。なお、整数論は代数系に分類されていますので、まずは代数を勉強してほしいと思います。今までの数学が苦手な人でも、これからの勉強で代数系の科目は十分に間に合います。要は興味を持って自分で進むことです。数理科学科で数の世界の神秘を体験してほしいと思います。

栗原 将人